

公立病院改革プラン平成28年度実績調書

項目	改革プラン	平成28年度実績	未達成であった場合はその理由
改革プランにおける「経営指標に係る数値目標（主なもの）」	経常収支比率 90.8% 医業収支比率 76.7% 資金不足比率 1.1% 病床利用率（一般） 76.9% 病床利用率（療養） 69.7% 職員給与費対医業収益比率 63.9% 材料費対医業収益比率 20.1% 減価償却費対医業収益比率 14.7% 委託料対医業収益比率 16.6% 診療単価 入院（一般） 31,337円 入院（療養） 14,807円 外来 8,683円 職員数 111人 医師数 11人 企業債残高 1,095百万円	経常収支比率 86.8% 医業収支比率 72.7% 資金不足比率 6.7% 病床利用率（一般） 74.4% 病床利用率（療養） 61.5% 職員給与費対医業収益比率 67.5% 材料費対医業収益比率 22.0% 減価償却費対医業収益比率 15.4% 委託料対医業収益比率 17.3% 診療単価 入院（一般） 30,527円 入院（療養） 14,275円 外来 8,290円 職員数 111人 医師数 11人 企業債残高 1,094百万円	入院・外来患者数ともに計画値を下回ったことにより、医業収益が計画値に届かず、経営指標のほぼ全般で計画未達成となった。
改革プランにおける「数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期」	〔民間的経営手法の導入〕 ①病院経営に関する外部コンサルタントを活用し、現状の問題点の洗い出しや改善策を提案いただき、経営分析を行う。（平成29年度） ②全ての病院職員が経営参画意識を持ち、患者サービスの向上によって患者を増やし経営向上に努める。（平成28年度～）	①未実施。 ②管理者会議における決定事項を全医師及び各部署長が出席する病院運営協議会で報告するとともに、随時、経営状況を報告して問題意識の共有を図っている。患者様からの意見箱を設置しており、クレジットカード決済導入など対応可能なものは対応した。看護部では毎月接遇委員会を開催しており、患者サービス向上に努めている。	①新管理者のもと平成30年度以降で検討。
	〔事業規模・事業形態の見直し〕 ①現在40床を有する療養病床の削減や廃止、県の病床機能分化・連携推進施設等整備事業費補助金や国の病床転換助成事業交付金などを活用した介護保険施設等への転換について検討する。（平成29年度）	①未実施。	①新管理者のもと平成30年度以降で検討。
	〔経費削減・抑制対策〕 ①後発医薬品の使用拡大による薬品費の削減など、材料費の抑制に努める。（平成29年度～） ②業務委託内容について再度精査し、委託料の削減に努める。（平成29年度） ③医療機器について計画的に購入することや新規導入の抑制により、購入費の平準化・削減に努める。（平成29年度～） ④照明や機器等の節電をより一層徹底し、光熱水費の削減に努める。また、不要なコピーなどの無駄をなくし、消耗品等の節減に取り組む。（平成28年度～）	①材料費（計画）327,883千円（実績）339,807千円 +11,924千円 毎月開催している薬事委員会において後発医薬品への変更を要請している。在庫の医薬品の使用期限の管理を徹底し、薬品の廃棄がおこらないよう努めており、他の診療材料についても安価のものに置き換えるなど価格抑制に取り組んだ。 ②委託料（計画）270,565千円（実績）265,868千円 ▲4,697千円 ③医療機器購入費（計画）35,000千円（実績）32,208千円 ▲2,792千円 ④光熱水費（計画）47,735千円（実績）46,996千円 ▲739千円 電気料金の入札実施により1,884千円の削減。消耗品費等はSPD（院内の物流を一括管理する業務）での管理により無駄な支出がないよう徹底した。	①年度後半の投薬費と診療材料費が増加したため計画値を上回った。

公立病院改革プラン平成28年度実績調書

項目	改革プラン	平成28年度実績	未達成であった場合はその理由
	<p>〔収入増加・確保対策〕</p> <p>①引き続き近畿大学医学部との連携を密にし、必要な医師数を確保することにより安定した診療体制の維持・充実に努める。（平成28年度～）</p> <p>②手術件数、病床利用率の向上に努める。（平成28年度～）</p> <p>③診療所等との連携を深め、紹介率の向上に努める。（平成28年度～）</p> <p>④作業療法士の採用等リハビリ機能の充実、検査機能の充実、服薬指導の実施など診療機能の向上に努める。（平成28年度～）</p> <p>⑤町外の病院へ抗がん剤治療のために通院している患者様の利便性を考慮し、外来化学療法を実施する。（平成28年度～）</p> <p>⑥糖尿病教育入院の啓発を実施する。（平成28年度～）</p> <p>⑦医師などの出張公開講座の実施、町広報誌、ホームページを活用した町民への広報活動充実により患者数の確保に努める。（平成28年度～）</p> <p>⑧未収金徴収の強化を図るとともに、内容について精査・検証する。（平成29年度～）</p> <p>⑨国保直営串本病院跡地の一般会計への売却について検討する。（平成29年度）</p>	<p>①定期的に近畿大学医学部を訪問し、派遣先の教授に状況報告を行うとともに信頼関係を築き、安定して医師を派遣いただくよう努めた。常勤医師数11名。</p> <p>②手術件数238件、病床利用率（一般）74.4%（療養）61.5%（計）70.5%。</p> <p>③紹介率40.2%（前年度比+3.9%）</p> <p>④作業療法士1名採用。服薬指導実施件数303件。</p> <p>⑤8月から外来化学療法を実施。患者数12人。</p> <p>⑥糖尿病教育入院の啓発チラシを配布。入院患者数9人。</p> <p>⑦医師及び理学療法士による出張公開講座を計4回開催。町広報誌、ホームページにより広報活動を実施した。</p> <p>⑧未収が発生した場合は電話連絡し、なお入金を確認できない場合に文書にて督促を行うなど速やかに対応している。</p> <p>⑨旧串本病院跡地については売却できていない。</p>	<p>②主に整形リハビリテーション科の手術件数が減少し、入院患者数の減少につながった。</p> <p>⑨平成30年度から大江戸温泉物語グループ株式会社に貸し付けを行い、賃貸借料を徴収する。</p>
<p>改革プランにおける「再編・ネットワーク化」</p>	<p>〔再編・ネットワーク化の概要〕</p> <p>平成23年11月1日に、国保直営串本病院と国保古座川病院を統合し、くしもと町立病院が誕生した。このことにより、病床数を166床から130床に36床削減したほか、経営の効率化、地域医療の充実が図られたところ。くしもと町立病院には地域医療連携室を設置して職員を配置しており、今後も、新宮二次医療圏内での他の医療機関や町内医療機関、保健・福祉施設等との連携強化に努めていく。</p>	<p>地域医療連携室を引き続き設置して職員を配置しており、他の医療機関保健・福祉施設等との連携強化に努めた。また、地域医療構想調整会議に出席し、病院間での意思統一、情報連携を図っている。</p>	
<p>改革プランにおける「経営形態の見直し」</p>	<p>〔経営形態の見直しの概要〕</p> <p>新ガイドラインでは、経営形態の見直しに係る選択肢として、次の5つが示されている。①地方公営企業法の全部適用②非公務員型の地方独立行政法人化③指定管理者制度の導入④民間譲渡⑤事業形態の見直し</p> <p>安定した病院経営を持続していくために、これら経営形態の見直しについても検討していく必要がある。</p>	<p>新病院開院時に地方公営企業法の全部適用を行った。病院経営を持続していくためにガイドラインで示された経営形態への見直しについても検討していく。</p>	